

特集

カラー写真でわかる

褥瘡 ラップ 療法

2010年3月、日本褥瘡学会
理事会は「ラップ療法に関する
見解」を発表。条件付でラップ
療法を認めるにいたしました。

「ラップ療法」とは、単に「食品用ラップを用いた褥瘡治療」ではありません。ラップ療法の先駆的な取り組みで知られる東鷺宮病院では、創傷治療理論に基づいたアセスメントを行い、食品用ラップ、穴あきポリエチレンや紙おむつといったラップ療法独特の物品と、従来から褥瘡治療に用いられてきた創傷被覆材、治療薬を巧みに組み合わせ、より効果的な褥瘡治療を行っています。

穴あきポリエチレン

洗浄ボトル／紙コップ

最低限必要なもの



紙コップ

採尿用の紙コップは小さな褥瘡の洗浄に最適

洗浄ボトル

陰部洗浄など、多量に水を使う場合に使用



紙おむつ

生理用ナプキン、尿とりパッドなども使用

非滅菌ガーゼ

創傷治療の3原則（20ページ）に基づき、未滅菌のもので可



ラップ

通常の食品用ラップ

穴あきポリエチレン

台所の三角コーナー用水切り袋を開いたものなどを使用

当院の褥瘡処置包交車

食品用ラップ



生理用ナプキン



創傷被覆材



「ラップ療法の是非」を問う時代は終わり、これからは急性期、慢性期、あるいは在宅など、それぞれの現場で「どのように行うか」が問われます。

